

# 「子どもの権利条約」実践の立場で 幼児教育の推進を！

## 「熊本市立幼稚園まなび創造プログラム」策定される

6月の教育委員会議において、「熊本市立幼稚園まなび創造プログラム」が策定されました。期間は2022～2026年度の5年間です。

熊本市教育振興基本計画のもと、「第2次熊本市特別支援教育推進計画」との整合性をとりながら、生涯にわたる人格形成の基礎を培う大切な時期として「幼児期」を位置づけ、市立幼稚園が幼児教育の拠点として、より質の高い幼児教育を提供していくために必要な幼児教育の内容について定めたものです。\*全文は、熊本市HPに掲載

### 「策定の趣旨」に「子どもの権利条約」明記を求め、実現

策定にあたり行われたパブリックコメントの結果と素案が報告された6月市議会・教育市民委員会で上野みえこ議員は、「子どもの権利条約」実践の立場にたった幼児教育をすすめるため、第1章「策定の趣旨」に「子どもの権利条約」を明記することを求めました。

教育長は「盛り込む」と答弁し、子ども基本法の引用という不十分な形ではあるものの「日本国憲法及び児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)の精神にのっとり、子ども施策を総合的に推進する」と記入されました。



# 民主主義の学びの場、「子ども議会」

8月2日、2年ぶりの「子ども議会」が市役所議会棟で開かれました。

本会議場での開会式に始まり、研修やブロック別協議の後、本会議場で発表と閉会式がありました。



## 「子どもの権利条約」とその実践をテーマに

「子どもの権利条約」と「校則の見直し」についての研修の後、4つのブロックに分かれ、校則について考える取り組みを通して、全校生徒が本気で取り組む学校づくりについて話し合われました。

発表の全体会は、様々な角度から校則見直しという身近な問題で意見交換がなされたことがよくわかる内容でした。「子ども議会」の取り組みが、各学校での民主主義の学びにつながって行きますように。

【控室から】  
安心して通える高校へ

上野 みえこ

義務教育を終え、高校へ進学するとき、公立と私立には教育費に大きな負担の違いがあります。この公私間格差をなくし、すべての子どもたちが公立・私立どこの高校であっても安心して進学し、学ぶことができるようにと、長年取り組まれてきたのが「私学助成増額を求め署名」です。我が家も、2人の子どもが私学へ通ったことから、ずっと、署名活動に協力してきました。

コロナ禍で、この間お休みになっていた「私学助成増額を求め署名」のスタート集会が久しぶりに開かれ、参加しました。高校授業料の無償化もすすみ、私学の負担も以前に比べれば減ってきましたが、まだまだ同じという訳にはいきません。集会では、現役高校生の訴えもありました。

「私学にしかない専門コースを選び、私学へ入ったが、イコール親の負担はおかしい。公私の別なく、どの高校にも進学できるように、私学の負担を減らしてほしい」

こんな当たり前の願いにこたえていくためにも、教育費の保護者負担を減らすことが必要です。欧米では、公立を中心に取り前にならしている「高等教育の無償化」、日本でも実現に向け、すすんでいかなければなりません。ぜひ、みなさまも署名にご協力を。

日本共産党  
熊本市議会だより

NO. 1289  
2022年8月28日合同号  
電話 328-2656  
FAX 359-5047



熊本市中央区手取本町1-1 メール: kumamsu@gamma.ocn.ne.jp  
発行: 日本共産党熊本市議団HP: 共産党 熊本市議団

検索



上野みえこ  
(中央区)



なすまだか  
(東区)



# 新型コロナの爆発的感染や物価高騰 市民のいのち・暮らしを守る予算編成を

## 「平和と民主主義・暮らしをまもる熊本市民連絡会」で、熊本市 2023 年度予算編成の要求交渉

8月19日、「平和と民主主義・暮らしをまもる熊本市民連絡会」で、2023年度熊本市予算編成に向けての要望交渉を行いました。市民連加盟の各団体が参加し、具体的な声を届けました。



### ＜参加者の声の主なもの＞

#### ひっ迫する医療現場から

コロナの第7波は、在宅死や死亡率も高い。病床削減や公立病院の統廃合などはしないでほしい。

#### 高齢者への補聴器補助は切実

補聴器購入には20～30万円ほどかかる。五感を鍛えると認知症予防にもなる。現在、全国で50自治体ほどが助成を行っており、熊本市でもぜひ実施してほしい。

#### 認可外保育料も法定代理受領へ

認可外保育所の保育料無償化分は、保護者負担・事務軽減の両面から法定代理受領へ変更を。

#### もっと申請しやすい生活保護に

相談室のプライバシーは守られず、汚い椅子を置くなど、申請者への処遇は改善してほしい。

#### 遅れている熊本市の子育て支援

県下の多くの自治体は高3まで完全無料の子ども医療費助成を実施している。自己負担を求めているのはごくわずかの自治体、熊本市は遅れている。

#### 障がい者のさくらカードは無料に

障がい者のさくらカードは、運賃の5割を市が負担している。もともと障がい者の公共交通の利用料は半額なので、無料にすべき。

#### コロナの減収へ市の支援を

熊本市はコロナの減収へ、本当に困っている人へ、固定費補助など、市独自支援を行ってほしい。

#### 市庁舎建替えはストップを

コロナ感染爆発の今、庁舎建替えは止め、コロナ対応に集中を。

### 【各分野の主な要望内容】

#### 1. コロナ対策について

- ①病床確保 ②患者対応医療機関への補助金 ③安全迅速なワクチン接種
- ④無料PCR検査 ⑤保健所体制強化・区ごと設置 など

#### 2. 医療について

- ①インフルエンザ予防接種の助成拡大 ④病床削減・公的病院統廃合中止
- ③子ども医療費助成制度の中3まで完全無料化 ②がん検診・特定検診無料化

#### 3. 介護・高齢者福祉について

- ①介護保険料・利用料の負担軽減、軽度者の切り捨て・ペナルティ中止
- ②特養ホームの待機者をなくす ③加齢性難聴者の補聴器購入補助の実施

#### 4. 国民健康保険について

- ①18歳以下均等割廃止・保険料引下げ ②新型コロナ傷病手当を事業主へ

#### 5. 障がい者福祉について

- ①障害者のさくらカード無料化 ②障がい者福祉タクシー券の拡充 など

#### 6. 生活保護について

- ①生活保護利用の広報啓発 ②「扶養義務照会」を強要しない ③車の使用を柔軟に認める
- ④エアコン設置・夏季加算実施 ⑤面接・相談室の環境改善

#### 7. 公営住宅について

- ①単身者枠・応募住宅を増やす ②ハト害への対応 ③家賃軽減
- ④網戸・換気扇等設備・水回りの定期改修・修繕、バリアフリー改修推進

#### 8. 事業者の営業とくらしを守ること、地域経済の振興

- ①コロナ減収へ市独自支援 ②コロナ融資の継続 ③住宅リフォーム助成制度
- ④消費税5%への減税・インボイス制度中止を国へ求める など

#### 9. 教育について

- ①少人数学級のさらなる拡充 ②給食費の無料化・食材の地産地消
- ③就学援助の対象品目拡充（クラブ活動費、生徒会費、PTA会費）

#### 10. 生理の貧困のさらなる拡充 ①予算を増やし個室への設置を

#### 11. 保育について（認可外保育所について）

- ①保育料無償化の法定代理受領への変更 ②保育料の第2子半額・第3子無償

#### 12. まちづくり、防災対策について

- ①市庁舎建て替えは、一旦見合わせ、コロナ対策等を優先に
- ②熊本城ホールへの赤字補てん中止 ③安易な民間委託と非正規雇用の中止